

2025 OCTOBER

No. 543

10

認知症になっても安心して暮らせる社会を

月刊 POLE-POLE (スワヒリ語)

ぼ～れぼ～れ

ゆっくり やさしく おだやかに



「ぼ～れぼ～れ群馬県支部版」

わたぼうし

No.506

理念

認知症の人と家族の会

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穏に続けられなければならない。認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助け合って、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

卷頭言

認知症と尊厳死、生きようメッセージ

目次

卷頭言

今年の「認知症の日」記念講演会に講師としてお招きした駒澤大学の荒井浩道先生より、

「家族の会」が、日本尊厳死協会の認知症を尊

厳死の対象に加えるかもしれない動きにいち早く反対の声を上げ、積極的に取り組んだことを評価する言葉をいただきました。

「家族の会」のこの取り組みは大きな意味を持つていると考えている私は大変うれしく思いました。

しかし、「家族の会」の世代も若返り、このことをご存じないかも知れない方のために概略をご紹介します。

また、つい最近私の住んでいる処に程近い柏川町で高齢の夫が妻を殺害し、自分も死のうとしたが死にきれず逮捕されるという事件が起きました。字名の女淵には親戚もあり大変驚きました。その後報道が途絶えており介護が絡んでの事件かと氣をもんでいました。そんな悲しい事件をなんとかなくしたいと取り組んだ「死なないで！殺さないで、生きようメッセージ」を思い起こしました。この取り組みについてもご紹介します。（事件は結局は痴情のもつれと報じられました）

これから予定

● 11月8日（土）	伊勢崎つどい	10時～12時	原病院
● 11月9日（日）	渋川つどい	10時～12時	渋川市中央公民館
● 11月15日（土）	館林つどい	10時～12時	館林市中部公民館
11月23日（日）	県央つどい	10時～12時	県社会福祉総合センター 7階 701会議室

生きようメッセージより

・**「わが家の認知症ケア手帳」**(65)

・死なないで、殺さないで、

・資料 認知症と死なないで、殺さないで

・解説 認知症と尊厳死を巡る議論を振り返って

・死なないで、殺さないで、

・認知症と尊厳死、生きようメッセージ

1頁

2頁

3頁

4頁

4頁

電話相談

◎群馬県支部（群馬県からの委託事業）

認知症の人と家族のための電話相談

027(289)2740

◎本部フリーダイヤル

0120(294)456

X(旧Twitter)

やってます



認知症と尊厳死を巡る議論を振り返って

田部井康夫



元岐阜県支部代表

故 敷島妙子さん



シンポジウムの模様

「尊厳死シンポジウム」

「ぼ～れぼ～れ」通巻 543 号付録 2025 年 10 月 25 日発行

朝日新聞「こじら」欄（1994 年 8 月 2 日付）で、日本尊厳死協会の中に、認知症を尊厳死の対象とするか否かを検討する動きがあることが報道されました。「読者が考える 老年期痴呆と尊厳死」と題して、同会の会員と思しき人のこの動きに賛成する立場からの意見がいくつか掲載されていました。一つを紹介します。

（今から 16 年前、「日本安楽死協会」（現在の日本尊厳死協会）の生者の意思（リビングウイル）の中に、頭がぼやけて「原状回復不可能な精神的無能力」とあることに大きな安心を見いだし、家族 4 人、リビングウイルを認めて会員となりました。

姑（しゅうとめ）の「にんげんのこわれていく様」をあらわに見続けた私

としては、何よりも怖いのは老年期痴ほうに陥ることだと思えたからです。ところが「尊厳死協会」と改名したころから、私が頼みの綱と思つた前記の項目が消えてしまつて現在に至つています。

2000 年には 15 万人の患者が見込まれる老年期痴ほう。選択項目でよいからせひリビングウイルの項目に加えてほしいと切望します。（61 歳・女性）

この動きに対し、「家族の会」は反対の意向を表明し会報誌上で論陣を張りました。群馬県支部からは田部井が 1995 年 1 月号に「ボケはあっても生きる」と題して投稿し、1996 年 7 月 7 日には、県内でがんの治療に熱心に取り組んでいる小笠原一夫先生と、岐阜県支部代表の敷島妙子さんをお招きして「ぼけと尊厳死についてのシンポジウム」を開催しました。

そして、1996 年 7 月 10 日には、「家族の会」本部の高見国生代表が上京し尊厳死協会に直接反対の申し入れを行いました。

こうした動きを受けて、協会も多数の賛成意見を退けて「否決」の結論を出す結果となりました。毎日新聞は次のように報じました。

○ 1996 年 7 月 28 日毎日新聞
日本尊厳死協会（理事長成田薰弁護士、75,000 人）は 27 日、東京都内の同協会で常任理事会を開き、重度の老人性痴ほう症になつた会員への尊厳死適用を医師に求める「ことを正式に否決した。

協会では「行き恥をさらしてまで生きたくない」「介護で家族が苦しむ」などの会員の声が寄せられたため、3 年前から「尊厳死の宣言書」（リビング協会では「行き恥をさらしてまで生きたくない」「介護で家族が苦しむ」などの会員の声が寄せられたため、3 年前から「尊厳死の宣言書」（リビング

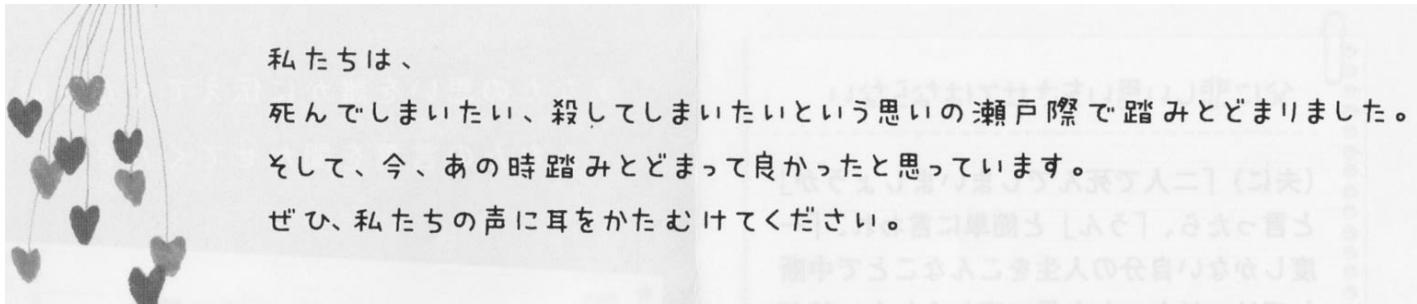
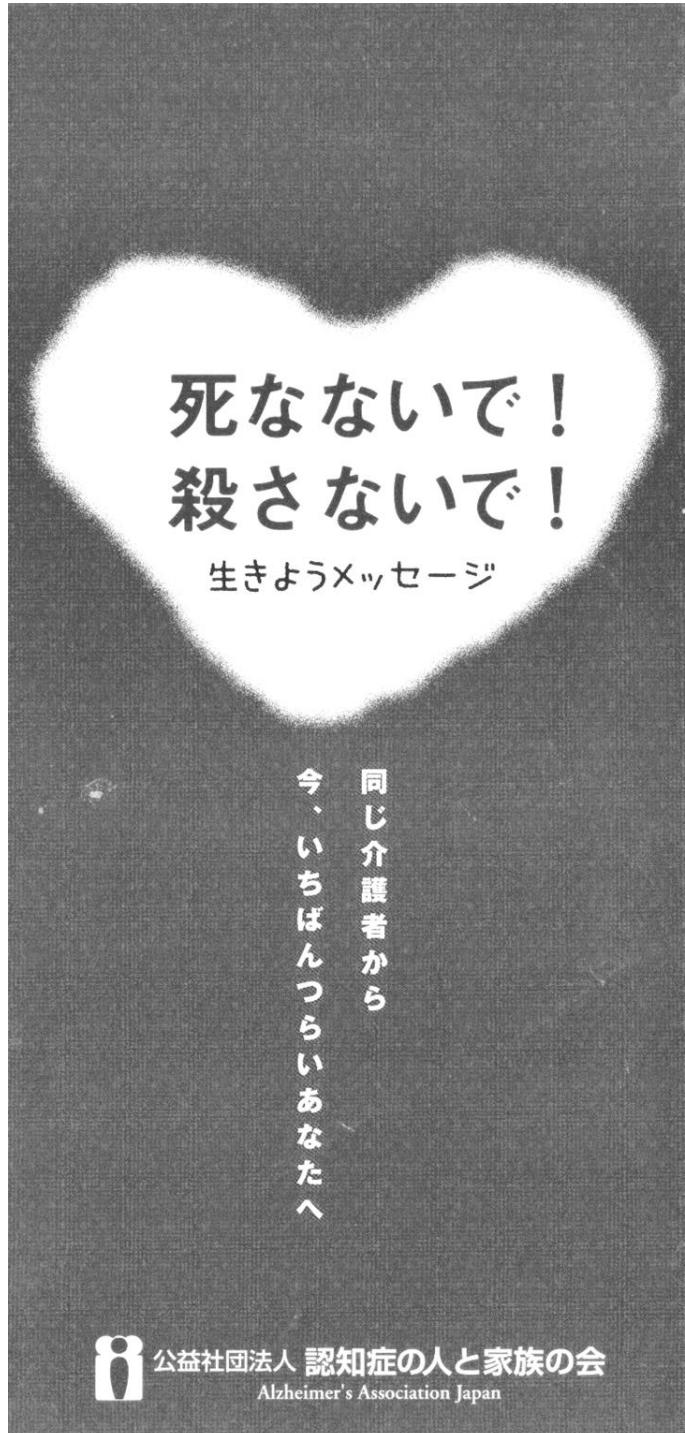
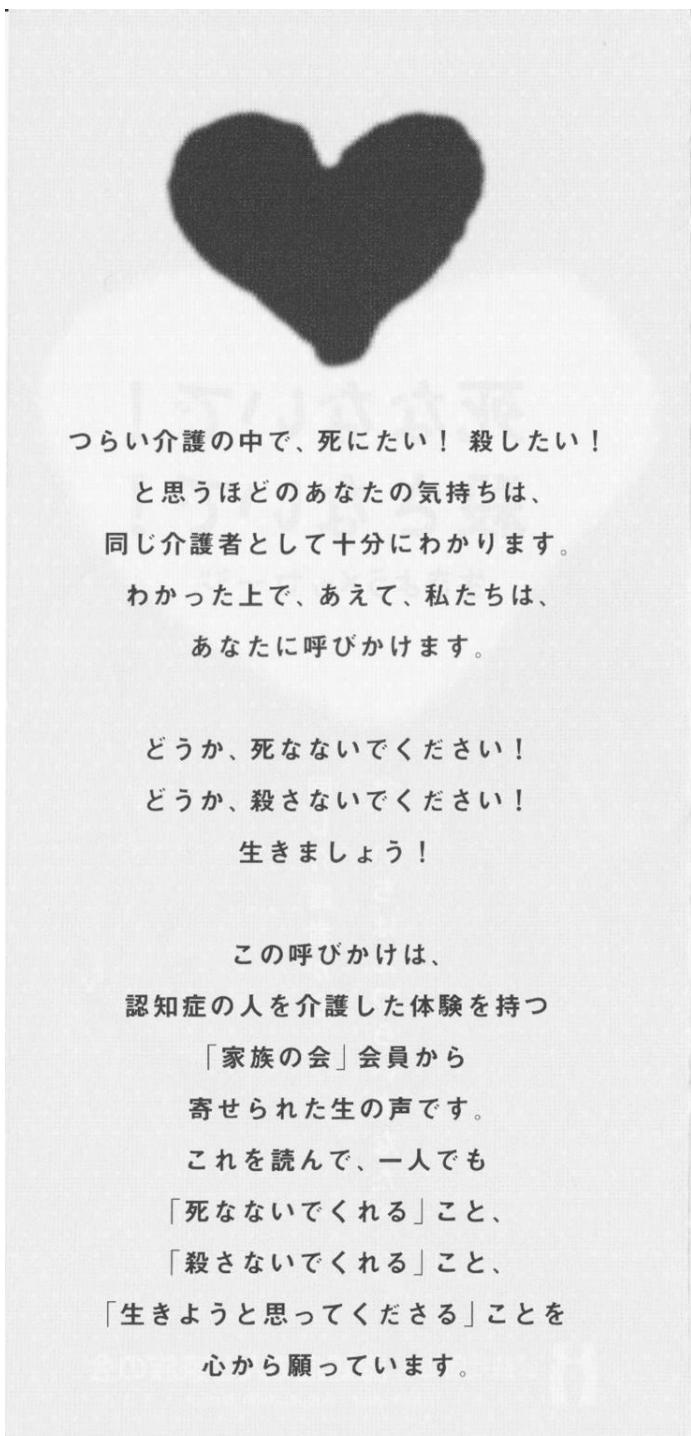
協会では「行き恥をさらしてまで生きたくない」「介護で家族が苦しむ」などの会員の声が寄せられたため、3 年前から「尊厳死の宣言書」（リビング

常任理事会には 9 人の常任理事のうち 7 人が出席。「痴ほうを含めると尊厳死への誤解が生まれる」など、全員が反対。重度の老人性痴ほう症を宣言書に取り入れないことを正式に決めた。

この結論を受けて、当時の私は次のようにまとめています。

協会の決定を受けて議論は一応の決着を見ました。今後はボケを正しく知り、理解してもらうこと、保健医療福祉の施策を充実させることにより、この問題が出てくる温床である、「ぼけに対する誤解、偏見、過度の怖れを解消していくための活動がより重要なことがわかります。

読者の皆さんはどう思われるでしょうか。



渡辺俊之の「わが家の認知症ケア手帳」
メンタライジングの活用

65

渡辺医院院長（精神科医、当会顧問） 渡辺俊之



最近の精神療法の一つに「メンタライジング」という方法があります。私たち生まながらに他人の行動の意味や意図を理解したり、相手の視点に立つたりして、自分の行動がどう理解されるのかを人間関係の中で学んでいます。その当たり前の方法について、精神分析的な理解が進んでいます。

海外の文献では、認知症者のケアでも、メンタライジングを理解することの重要性が報告されています。私たちは情緒的に安定し、心に余裕がある時にメンタライジングを使うことができます。しかし、介護疲れや自分の行動への無理解、暴言や暴力を振るわれる状況になると、相手を理解しようとする姿勢が保てなくなります。

英国サルフオード大学のマクエボイ氏は、境界性パーソナリティ障害をメンタライジング状態に回復させるための方法「コミュニケーション・チャンネル」が認知症にも活用できるこ

とを示しています。「チャンネル1」は理解の枠組みを提供し、介護者が自身の経験や心理状態を探求するのを助けるための扉です。「チャンネル2」は介護者が立ち止まって考えを巡らせ、自身や認知症者の精神状態について内省すること。さらに「チャンネル3」は、長期にわたる困難な感情の旅の過程において、内省する能力を維持していく環境づくりです。

私の知る認知症の母親を介護している女性は、母親が寝た後に日記を書いています。「今日、母があんなに笑つたのはなぜだろう。怒ったのは……」と、認知症介護を自身の内省の旅につけています。



「この家から殺人者を出してはいけない」

何度も、主人に「一緒に死にましょう」とお願いしたかわかりません。しかし、主人は「わしは死なん。この家から自殺者も殺人者も出してはいけない」と言いました。

(69歳・女性 香川県)

みんなが今より幸せに

母一人、子一人、その母が認知症になって6年。今まで、「自分さえ我慢したら」とがんばってきました。しかし、自分のストレスも体力も限界がきました。性格上、殺人は無理。

毎日死ぬことばかり考えていました。でも今、みんなが今より幸せになる方法を探しています。

(41歳・男性 長野県)

「孫がかわいそうや」の老いた母の言葉に

殺すこと、心中することばかり考えていると実母に話しました。すると、「辛抱や」が口癖の老いた母が「殺すのやったら帰っておいで、孫が殺人犯の母を持ったら一生かわいそうや」と泣きながら言いました。

(67歳・女性 奈良県)

夫の口笛に泣きながら歌って

散歩に出て、崖のところに立って眺めている時、「ここで体当たりして二人して落ちたら死ねるだろうか」という思いを何度も持ちました。そんなある日、夫が口笛を吹いたのです。夕焼け小焼けの歌でした。泣きながら歌いました。

(79歳・女性 静岡県)